

令和2年度 第2回福知山市地域公共交通会議
第1回(仮称)地域公共交通計画作成委員会 別添資料

「福知山市地域公共交通網形成計画」現時点での目標達成状況と評価について

目標1 「利用しやすいバス交通(再編による新たな交通体系も含む)を確保する。」		
指標1-①	市民1人あたりの年間路線バス利用回数を増やします。	P.2
指標1-②	敬老乗車券の購入冊数を増やします。	P.3
目標2 「公共交通のネットワークを充実させる。」		
指標2-①	自家用自動車を利用しない市民の日常移動に対する満足度を向上させます。	P.4
指標2-②	利便性と効率性の向上及び新たな利用者の発掘につながるバス路線の再編成や新たな移動手段の導入や試行を実施します。	P.5
目標3 「将来にわたり持続可能な交通移動手段を維持・確保する。」		
指標3-①	公共交通の必要性和利用に対する意識高揚に向けた啓発活動を推進します。	P.7
指標3-②	一定の支援事業費の中で最大限効率的に地域公共交通網を再編します。	P.8
利用促進に向けた当面の具体的事業		
① 市民協働型利用促進事業		P.9
② バス情報発信事業		P.10
公共交通再編に向けた具体的事業		
① バス路線再編評価事業(路線評価基準の設定)		P.11
② 乗継改善事業		P.13
③ デマンド実証実験事業		P.13
④ 公共交通空白地の地域コミュニティ交通支援事業		P.14
⑤ スクールバス活用検討事業		P.14

【計画の目標】

目標							
【目標1】 利用しやすいバス交通(再編による新たな交通体系も含む)を確保する。(形成計画P.144)							
指標							
【指標1-①】 市民1人あたりの年間路線バス利用回数を増やす。 利用回数／総人口							
福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31(R1) 実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
6.7回 (平成26年度) 541,404回 ／80,760人	7.0回	6.8回 544,699回 ／79,534人	7.6回 600,437回 ／79,049人	7.3回 573,473回 ／78,612人	7.1回 552,463回 ／77,743人		○
※利用回数はバス事業年度(前年10月から当年度9月まで)				※総人口は当年3月末時点			
<p>総人口と利用回数の推移</p>				<p>1人当たり利用回数</p>			
評価(R2途中段階)							
<p>バスの年間利用者数はH27:544,146人→R1:552,463人と8,317人増加。丹後海陸交通、自主運行バス、市バスは減少したが、西日本ジェイアールバスは微増、京都交通は約22,000人増加。特に大江線や福知山綾部線等の路線が増加しており、通学利用が増加しているものと思われる。</p>							

【計画の目標】

目標

【目標1】 利用しやすいバス交通(再編による新たな交通体系も含む)を確保する。(形成計画P.144)

指標

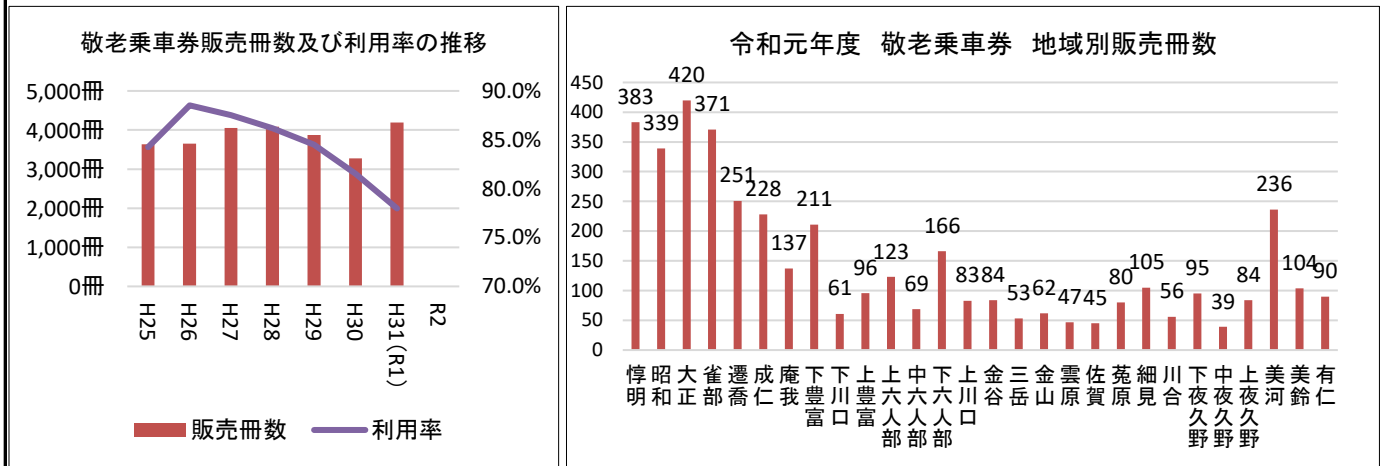
【指標1-②】 敬老乗車券の購入冊数を増やす。

福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31 (R1) 実績	R2実績	
3,648冊 (平成26年度)	4,000冊	4,083冊	3,872冊	3,272冊	4,188冊		○

販売冊数等推移

販売冊数	販売箇所	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
	福知山市役所	2,570冊	2,646冊	2,978冊	3,024冊	2,875冊	2,443冊	3,187冊	
三和支所	359冊	251冊	290冊	296冊	286冊	224冊	261冊		
夜久野支所	233冊	268冊	276冊	292冊	226冊	202冊	258冊		
大江支所	392冊	326冊	380冊	316冊	349冊	259冊	405冊		
出張販売(市民病院)	47冊	66冊	53冊	16冊	10冊	28冊	7冊		
出張販売(大江分院)	32冊	19冊	-	23冊	-	20冊	-		
運転免許証自主返納特典分	-	72冊	78冊	116冊	126冊	96冊	70冊		
販売冊数合計	3,633冊	3,648冊	4,055冊	4,083冊	3,872冊	3,272冊	4,188冊		
利用可能額	10,899,000円	10,944,000円	12,165,000円	12,249,000円	11,616,000円	9,816,000円	12,564,000円		
利用額	9,183,100円	9,687,800円	10,645,100円	10,555,800円	9,815,200円	8,003,800円	9,797,000円		
利用率	84.3%	88.5%	87.5%	86.2%	84.5%	81.5%	78.0%		

※数値は行政年度 ※利用額、利用率は翌年度利用を含む



評価(R2途中段階)

目標は達成しており、高齢者の一定の移動支援が図られた。
 なお、平成30年度販売分より、敬老乗車券の有効期限を翌年度末から当年度末へと変更した。

【計画の目標】

目標							
【目標2】 公共交通のネットワークを充実させる。(形成計画P.145)							
指標							
【指標2-①】 自家用自動車を利用しない市民の日常移動に対する満足度を向上させる。							
福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31(R1) 実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
満足 :31.8% やや満足:23.6% やや不満:28.2% 不満 :16.4% (平成27年度)	満足 :40% やや満足:30% やや不満:15%以下(半減) 不満 :10%以下(半減)	-	-	-	-		—
評価(R2途中段階)							
令和2年度地域公共交通計画作成調査業務の中で調査する。							

【計画の目標】

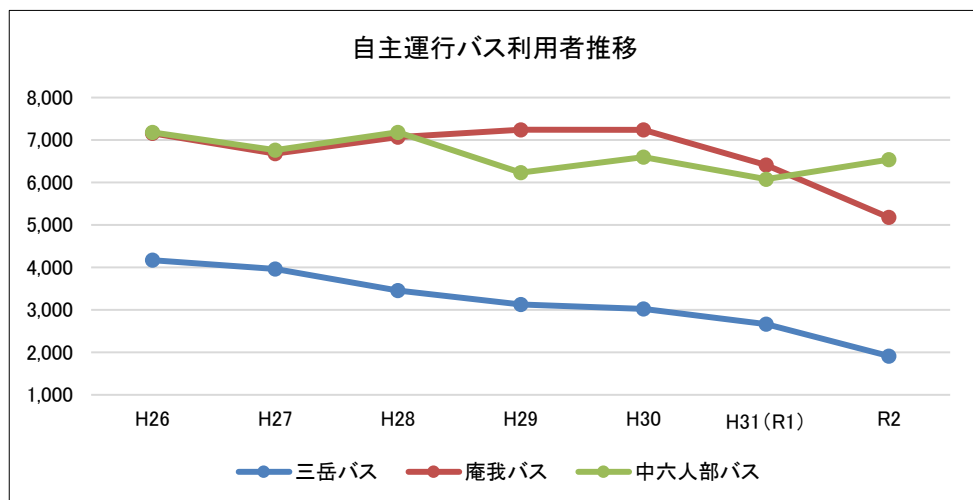
目標							
【目標2】 公共交通のネットワークを充実させる。(形成計画P.145)							
指標							
【指標2-②】 利便性と効率性の向上及び新たな利用者の発掘につながるバス路線の再編成や新たな移動手手段の導入や試行を実施する。							
福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31(R1)実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
0件 (平成27年度)	6件	1件	3件	3件	8件	9件	○
①H29.3=川北デマンドタクシー実証実験 ②H29.10=市バス三和再編 ③H29.10=みわひまわりライド実証実験 ④H31.4=スクールバス一般混乗 ⑤H31.4=庵我バス再編 ⑥H31.4=中六人部バス再編 ⑦R1.10=姫髪乗合タクシー実証実験 ⑧R1.10=まちなか循環バス再編(光秀ルート運行開始) ⑨R2.9=三岳バス再編							

自主運行バスの利用者数推移

(単位:人)

地域	再編内容	再編時期	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
三岳バス	乗降規制解除及び路線見直し	R2.9.1	4,170	3,961	3,459	3,125	3,020	2,662	1,915
庵我バス	乗降規制解除及び路線見直し	R2.4.1	7,155	6,683	7,072	7,243	7,240	6,408	5,178
中六人部バス	乗降規制解除	H31.4.1	7,181	6,763	7,184	6,230	6,599	6,079	6,538
合 計			18,506	17,407	17,715	16,598	16,859	15,149	13,631

※数値はバス事業年度(前年度10月から当年度9月まで)

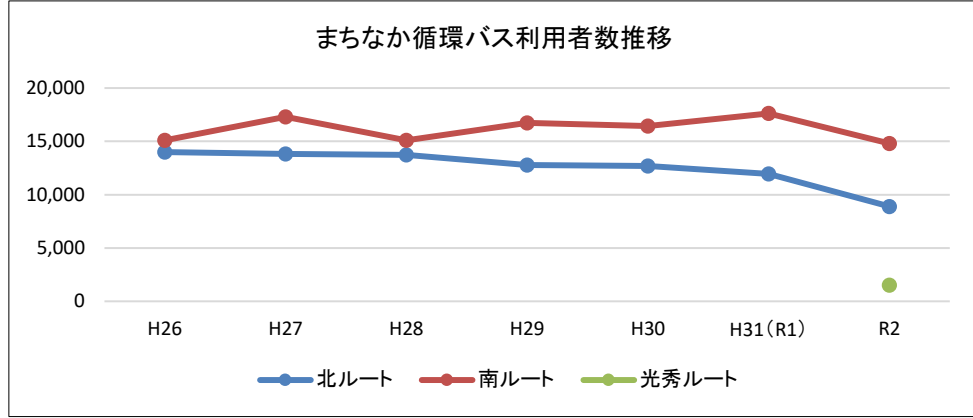


まちなか循環バスの利用者数推移

(単位:人)

地域	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
北ルート	13,996	13,825	13,725	12,768	12,693	11,960	8,898
南ルート	15,086	17,301	15,112	16,745	16,429	17,618	14,807
光秀ルート							1,508
合計	29,082	31,126	28,837	29,513	29,122	29,578	25,213

※数値はバス事業年度(前年度10月から当年度9月まで)



みわひまわりライド利用実績

	H29.10~	H30	H31(R1)	R2
利用回数	191回	700回	969回	
稼働日数	68日	192日	207日	
稼働日当たりの利用回数	2.8回	3.6回	4.7回	
会員数	66人	90人	126人	

※数値は行政年度 ※会員数は年度末時点

スクールバス一般混乗利用実績

	H31(R1)	R2
一般	0人	
中学生	34人	
小学生	214人	
合計	248人	0人

※数値は行政年度

姫髪乗合タクシー利用実績

	R1.10~	R2
利用人数	100人	
稼働便数	64便	
乗合率	1.56人	

※数値は行政年度

評価(R2途中段階)

三和地域において、市バスの段階的な見直し、公共交通空白地有償運送「みわひまわりライド」やスクールバス一般混乗の導入を行い、下豊富地域において、デマンド型乗合タクシー「姫髪乗合タクシー」の実証実験を行った。また、俺我バスや三岳バスの経路見直しと乗降制限解除や中六人部バスの乗降制限解除を行った。さらに、まちなか循環バスの再編を行い、光秀ルートの運行を開始した。これらにより、地域それぞれの状況やニーズに応じた移動手段の確保やその検討が実施された。

【計画の目標】

目標							
【目標3】 将来にわたり持続可能な交通移動手段を維持・確保する。(形成計画P.146)							
指標							
【指標3-①】 公共交通の必要性和利用に対する意識高揚に向けた啓発活動(MM:モビリティマネジメント)を推進する。							
福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31 (R1) 実績	R2実績	達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
2回(校) 10/15細見 10/27成仁 (平成27年度)	年3回(校) 程度	1回(校) 11/17 美河小 1・2年生38人	1回(校) 11/10 成仁小 5年生59人	1回(校) 10/31 上川口小 5年生10人	0回(校)		△
評価(R2途中段階)							
<p>毎年、市内各小学校宛てにMMの実施を依頼してるが、学校のカリキュラムの関係もあり、目標値は達成できなかった。しかし、MM実施後の児童及び保護者アンケートでは、ほとんどバスを利用していなかったが、今後は利用しようと思うという意見があり、公共交通に対する意識向上の効果があつた。</p> <p>※MM(モビリティマネジメント) コミュニケーションを通じて促す交通施策のこと。公共交通の必要性、環境問題や健康への影響などについて情報提供を行い、自家用車から公共交通利用などへの転換を促します。</p>							

【計画の目標】

目標

【目標3】 将来にわたり持続可能な交通移動手段を維持・確保する。(形成計画P.146)

指標

【指標3-②】 一定の支援事業費の中で最大限効率的に地域公共交通網を再編する。
 ※路線バス等(新たな交通体系含む)に係る補助金、市バス委託料、自家用有償旅客運送事業への支援事業費の合計額(鉄道除く)

福知山市地域公共交通網 形成計画 記載事項		実績及び評価					達成状況 ○達成 △一部着手 ×未達成
計画策定時の 数値	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	H31(R1)実績	R2実績	
103,988,153円 (平成27年度)	市財政負担額 が平成27年度 決算額を上回 らない	97,723,480円	101,657,224円	95,267,661円	99,907,660円		○

市財政負担額の推移

(単位:円)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
路線バス	106,667,650	102,631,153	96,257,480	99,870,224	92,834,661	96,621,795	
公共交通空白地有償運送	575,000	581,000	593,000	327,000	320,000	329,000	
福祉有償運送	767,000	776,000	873,000	702,000	817,000	653,000	
みわひまわりライド				758,000	1,296,000	2,000,000	
姫髪乗合タクシー						303,865	
合計	108,009,650	103,988,153	97,723,480	101,657,224	95,267,661	99,907,660	

※数値はバス事業年度(前年度10月から当年度9月まで)

※鉄道を除く、路線バス等(新たな交通体系含む)に係る補助金、市バス委託料、自家用有償運送事業への支援費の合計額



評価(R2途中段階)

三和地域の公共交通再編に伴う市バスの運行内容見直しによって委託料を大幅に削減した。同時に、公共交通空白地有償運送「みわひまわりライド」やデマンド型乗合タクシー「姫髪乗合タクシー」の実証実験を行っているが、平成27年度の決算値を上回らない範囲で実施している。しかし、路線バスに対する欠損補助については、人件費や燃料費の影響を受けるため、増減幅が大きくなる。

利用促進に向けた当面の具体的事業

①市民協働型利用促進事業(形成計画P.148)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項				実施結果及び効果	
具体的な取り組み	実施主体	実施期間	内容	実施結果	効果
モビリティ・マネジメント(MM)の推進	運行事業者 市 地域 学校	平成28年度～令和2年度	バスのバリアフリーに関する工夫や環境に優しい乗り物であることの理解と公共交通の必要性和利用に対する意識の啓発を実施します。	H28.11.17 美河小学校(1・2年生38人) H29.11.10 成仁小学校(5年生59人) H30.10.31 上川口小学校(5年生10人)	MM実施後の児童・保護者へのアンケートから、今後、バスを利用したいという意見があり、バスに対する意識向上の効果があつた。
学校訪問説明会の開催	運行事業者 市 学校	平成28年度～令和2年度	高校生の通学利用を促進するため、中学校や高校の入学予定者説明会などで路線バスについての説明を実施します。	実施に至らず	—
路線バスおでかけツアーの実施	市民(イベント実施者) 運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	路線バスを利用して商業施設や公共施設にアクセスできることを体験してもらいます。	・まちなか循環バスを利用したウォーキングイベント(H29.2.2)(主催:+1000歩の会、参加者:50人) ・子育て団体によるまちなか循環バス体験乗車(H30.2.21、H31.2.26)	各種イベントにバスを活用してもらうことで、バスの乗り方や利便性を知ってもらうことができた。
親子バス体験乗車会の開催	市民(イベント実施者) 運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	乗り物が大好きな幼児に楽しんでもらえるような親子バス体験乗車会を開催します。	夏休み子どもお出かけバスチケット事業の実施(平成29年度～) ・利用枚数 H29=174枚、H30=113枚、R1=165枚、R2=75枚 ・事業者別内訳(4か年合計) 京都交通=69.8%、JRバス=9.7%、丹海=1.7% 三岳=0%、庵我=6.3%、中六人部=1.7% 三和=2.5%、夜久野=1.0%、大江=7.4%	夏休み期間に実施することで、家族でバスを利用するきっかけづくりとなった。
スタンプラリーの実施	市民(イベント実施者) 運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	バス利用のきっかけとなるようなスタンプラリーを実施します。	実施に至らず	—
市内イベント路線バス活用事業	市民(イベント実施者) 運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	市内で行われるイベントのチラシにバス路線や時刻表を掲載し、公共交通での来場を呼びかけます。また公共交通のダイヤに配慮した開催時間を検討します。	やくの高原まつりや大江山酒呑童子祭りのイベントチラシに、バス時刻表や乗り継ぎ情報を掲載	イベントチラシに公共交通の情報を掲載することで、より広く公共交通のPRができ、特に大江山酒呑童子祭り当日の大江山の家線については、1日の平均利用人数6人に対し143人の利用があり、大きく利用促進につながった。
バス車両デザインの公募	市バス	平成28年度～令和2年度	愛着の持てるバスラッピングを公募します。	平成28年度更新の市バス畑線についてラッピングデザインを公募	「しだれ桜」「銀河鉄道」を連想させるシンプルな桜と星の親しみやすいデザインとなった。 
敬老乗車券事業	運行事業者 市	平成25年度から実施中	高齢者を対象としたお得な共通乗車券により公共交通の利用促進を行います。出張臨時販売を実施して購入しやすくします。	【敬老乗車券販売実績】 H28:4,055冊 H29:4,083冊 H30:3,872冊 R1 :4,188冊	目標は達成しており、高齢者の一定の移動支援が図られた。 なお、平成30年度販売分より、敬老乗車券の有効期限を翌年度末から当年度末へと変更した。
運転免許証自主返納者への支援	市民 運行事業者 市	平成26年度から実施中	運転免許証の自主返納のきっかけづくりと、応援協賛事業者との協働により自主返納者を支援します。	【運転免許証自主返納支援事業申請者数】 H28:194人 H29:230人 H30:241人 R1 :298人	運転免許証自主返納支援事業の申請者数は年々増加しており、公共交通の需要が高まっているものと思われる。

②バス情報発信事業(形成計画P.149)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項				実施結果及び効果	
具体的な取り組み	実施主体	実施期間	内容	実施結果	効果
わかりやすい時刻表と路線図の発行	運行事業者 市 地域公共交通会議	平成28年度～令和2年度	わかりやすく便利な時刻表及び路線図を作成します。	年1回、「福知山市内バス路線マップ時刻表&レール時刻表」を発行している。時刻表にはQRコードを掲載し、スマホ等で各路線の運賃を確認したり、森の京都NAVIアプリをダウンロードできるようになっている。	利用者にもわかりやすい時刻表を作成・配布することができた。
出前講座の開催	運行事業者 市 地域	平成28年度～令和2年度	路線バスに対する関心を持ってもらうため、定期的に路線ごとの利用者状況、収支状況等について、路線評価基準と対比しながら公表し、利用促進を図るとともに、改善されない場合には、運行内容見直し路線となることを事前に周知します。	実施に至らず	—
広報ふくちやま及び市ホームページによる利用促進の呼びかけと、利用者状況、収支状況等の定期的な公表	市	平成28年度～令和2年度	路線バスの利用促進に向けた呼びかけを行うとともに、路線バスに対する関心を持ってもらうため、定期的に路線ごとの利用者状況、収支状況等について、路線評価基準と対比しながら公表し、利用促進を図るとともに、改善されない場合には運行内容見直し路線となることを事前に周知します。	広報ふくちやま平成28年12月1日号で市バスの利用状況を公表し、運行内容の見直し検討について周知した。また、路線再編にあたっては、地域説明会や全戸配布チラシ等によりバスの運行状況を周知した。	見直しが必要な路線については、実績値を明示することで、地域住民の理解を得ることができた。
交通結節点におけるわかりやすい情報提供の検討	運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	駅やバス停など乗り換えが多い場所において、わかりやすい案内を検討します。また、鉄道駅ホーム内に路線バスの時刻表を掲示するなど、乗り継ぎしやすい情報を提供します。	需要の多い市民病院、福知山城へのバスの時刻をまとめたポスターを福知山駅北口に掲示。(R2.4から)	市民病院、福知山城には多くの路線が運行しており、1つの時刻表にまとめることでわかりやすい乗換案内ができた。
わかりやすい車両やバス停の行き先表示	運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	車両やのりば、バス停において、わかりやすい表示を行います。	車両に行先表示板を設置し行先を明示している。また、バス停の時刻表に行先を表示している。	利用者に対し、わかりやすい行先表示ができた。しかし、道路の片方にしかバス停が設置できていない所については、更なる工夫が必要である。
公共交通利用実態市民アンケートの実施	地域公共交通会議	平成31(令和元)年度～令和2年度	形成計画に基づいた再編事業の評価を行うため公共交通の利用実態やその満足度に関する市民アンケートを行います。	未実施(地域公共交通計画作成時の調査業務において実施予定)	—
路線バス沿線の行楽情報の発信	運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	沿線のタイムリーな行楽情報を発信することで、利用促進を図ります。	「路線マップ時刻表&レール時刻表」にモデルコースや森の京都NAVIアプリのQRコードを掲載している。	市内の主要な観光スポットへの公共交通を利用したモデルコースを路線マップ時刻表&レール時刻表に掲載することで、わかりやすい乗継情報の発信を発信することができた。ただ、森の京都DMOによるNAVIアプリについては更新が止まっており、今後の掲載を見直す必要がある。
ホームページの刷新	運行事業者	平成28年度～令和2年度	緊急時の運休情報やわかりやすいバス情報を発信するため、ホームページを刷新します。	令和元年度に市ホームページ全体を刷新した。緊急時の運休情報等については、都度、新着情報として掲載している。また、民間バスについては、ダイヤ改正等の情報をタイムリーに反映するため、民間バス会社のホームページへのリンクを掲載している。	緊急時の運休情報、路線図、運賃、時刻表等、バス利用に必要な情報をホームページで提供することができた。

公共交通再編に向けた具体的事業

①バス路線再編評価事業(路線評価基準の設定)(形成計画P.150～P.151)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項				実施結果及び効果	
具体的な取り組み	実施主体	実施期間	内容	実施結果	効果
路線評価基準の検討及び設定	地域公共交通会議	平成27年度～平成28年度	1便あたり利用者数、収支率、運賃100円を得るために必要な経費、1人あたりの市補助金額など、一定の基準項目と数値の設定を検討します。	福知山市地域公共交通再編実施計画においてバス路線評価基準を設定。 【路線評価基準】 ①収支率 民間バス40%未満 自主運行バス30%未満 市バス10%未満 ②路線1便当り平均乗車人数 1.0人以下 ③利用者1人当り市財政負担額 1,000円/人以上	各バス路線の再編の必要性を評価するための基準を設定することで、地域等で説明を行う際に、見直しを行う根拠として明示することができた。
評価基準に基づく「運行内容見直し路線」の選定	地域公共交通会議	平成28年度	決算の数値にて、評価基準に基づく評価を行い、「運行内容見直し路線」を選定します。	福知山市地域公共交通再編実施計画において、路線評価基準に基づく全路線の評価を実施。 1項目以上該当する路線を見直し検討の対象としている。	見直しが必要な路線について、明確にすることができた。
「運行内容見直し路線」の公表	地域公共交通会議	平成28年度～	選定した「運行内容見直し路線」の公表を行います。	路線評価結果が記載された福知山市地域公共交通再編実施計画を市ホームページで公表している。	見直しが必要な路線について、周知することができた。
住民懇談会の実施	地域公共交通会議 地域	平成28年度～	地域住民に対して、選定した「運行内容見直し路線」についての説明を行うとともに、地域に適した運行形態、運行体系への再編について協議や検討を行います。また、「便数の削減」、「運行体系の変更」、「路線が廃止になる可能性がある場合には地域主体による新たな運行の検討」などを説明します。	地域説明会において、路線評価基準と現状、路線再編案や地域が主体となって実施する代替交通の導入検討について説明している。	運行実績が基準を満たしていないことや、代替交通導入を検討すること等を説明することで、減便や区間短縮について一定の理解を得ることができた。
住民アンケートの実施 地域による利用促進の推進	地域	平成28年度～	評価内容の説明と今後の利用変化の意向を確認します。	実施に至らず	—
運行内容の検討・利用者負担の検討	運行事業者 市 地域	市バスは平成28年度～	運行内容(運行形態・ルート・ダイヤ・運賃)の検討を行います(調整可能なものから順次)	運行内容の見直しにあたっては、路線全体だけでなく便毎の利用状況を確認し、実態に即したルート・ダイヤの検討を行っている。	主に市バスと自主運行バスについて、曜日や便ごとの実態に応じた見直しを進め、効率性の向上と利便性の確保を図った。
見直し内容の決定	運行事業者 市 地域公共交通会議	市バスは平成28年度～	見直し内容の決定を行います。(調整可能なものから順次)	運行内容の見直しについては、随時地域公共交通会議で協議している。	地域公共交通会議で協議が整った上で運輸局への届け出ができています。
見直し内容の実証実験	運行事業者 市 地域	市バスは平成28・29年度～	見直し内容の実証実験を行います。(調整可能なものから順次)	運行内容の見直しについては、実証実験期間を設けず、それに変わる措置として、利用実態の把握やアンケート等によるニーズの把握、地域説明会の開催等により十分検討を行った上で進めている。	—
見直し後の本格運行	運行事業者 市	市バスは平成29・30年度～	見直し後の本格運行を開始します。(調整可能なものから順次)	【本格運行実績】 ・H29.10 三和市バス 減便 ・H30.4 三和市バス 土曜日運休 ・H31.4 三和市バス 減便 ・H31.4 庵我バス 経路変更 ・H31.4 中六人部バス 乗降制限解除 ・R1.10 まちなか循環バス 経路変更 ・R2.4 庵我バス 日祝運休 ・R2.9 三岳バス 経路変更、乗降制限解除	バス路線見直し後の本格運行により、市バス運行にかかる経費が削減され、中六人部バスでは減少していた利用者数が増加に転じた。 平日と比較して利用の少ないまちなか循環バス北ルートの日祝の運行を、福知山城から御霊公園へと周遊する光秀ルートに切り替え、増加する観光客のニーズに対応した。

評価基準項目に基づく財政 支援	市	平成28年度～	決算の数値にて、評価基準項目に基づく財政支援を行います。	評価基準には財政支援に関する項目を設けていない。(路線の見直しや乗合交通としての必要性を検討するための評価基準として設定している。)	—
「評価基準項目に基づく財政支援」について公表	地域公共交通会議	平成28年度～	「評価基準項目に基づく財政支援」について公表します。	評価基準には財政支援に関する項目を設けていない。(路線の見直しや乗合交通としての必要性を検討するための評価基準として設定している。)	—
再編実施計画の検討	地域公共交通会議	市バスは平成28年度中に策定を目指します。その他は合意が調い次第、順次実施します。	再編実施計画の策定が必要となれば、策定のための協議を順次開始します。	福知山市地域公共交通再編実施計画策定委員会を設置し、計画策定について協議を行った。	再編実施計画策定に向けた関係者による合意形成を図ることができた。
再編実施計画策定のための調査	地域公共交通会議	市バスは平成28年度中に策定を目指します。その他は合意が調い次第、順次実施します。	再編実施計画策定のための調査を実施します。	福知山市地域公共交通再編実施計画策定に係り、業務委託を発注し調査を実施した。	再編の方向性の基となる、本市の公共交通の路線や便ごとの詳細な現状や地域のニーズについて把握することができた。
再編実施計画の策定	地域公共交通会議	市バスは平成28年度中に策定を目指します。その他は合意が調い次第、順次実施します。	再編実施計画を策定することにより、再編を計画的に推進していきます	平成29年8月、福知山市地域公共交通再編実施計画を策定した。	路線や便ごとの現状に基づいた地域別・路線別の再編の方向性を定めることができた。
車両の最適化	運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	車両の更新時期に合わせて、需要にあった乗車定員の車両に更新します。その際には、バリアフリー化(低床バスの導入)についても可能な限り配慮します。	【バス車両更新実績(H28以降)】 H29.2 夜久野市バス 23人乗り → 10人乗り H31.4 三岳バス 25人乗り → 14人乗り H31.4 中六人部バス 25人乗り → 14人乗り	利用実態に応じた車両に更新し、効率化を図り、三岳では小型化に合わせて細部運行を開始した。また、オートステップや手すりの設置等、可能な範囲で誰もが利用しやすい車両の整備を行った。
利用実態に合わせた利用しやすいダイヤ改正の検討	運行事業者 市	平成28年度～令和2年度	利用者の利用実態を把握し、地域のニーズと利用予測に見合った利用しやすいダイヤ改正を検討します。	市バスのダイヤについては、幹線バス路線や鉄道との接続、乗務員への利用実態の聴き取りを行い、都度改正を行っている。事業者が運行するバスについては、事前調整の中で市の要望を伝え、可能な範囲で反映させた。	限られた便数の中で、可能な限り地域住民の生活利用を基本としたダイヤ改正を行い、利便性の向上が図られた。
地域公共交通再編事業	地域公共交通会議 運行事業者 地域 市	平成28年度～令和2年度	形成計画、再編実施計画に基づいたバス路線の再編や新たな移動手段の導入や試行を行います。	市バスについては、三和地域において段階的な見直しと公共交通空白地有償運送「みわひまわりライド」やスクールバス一般混乗の導入を行った。また、大江地域については、令和3年度からの再編に向けて協議中である。自主運行バスについては、三岳バスと庵我バスの経路見直しや庵我バスと中六人部バスの乗降制限解除を行った。さらに、川北地域と下豊富地域において、デマンド型乗合タクシーの実証実験を行った。	計画の方針に基づき、地域や路線毎の実情に即した再編を実施し、効率性の向上と利便性の確保を図った。これにより市バス運行にかかる経費が削減され、また、中六人部バスでは減少していた利用者数が増加に転じた。一方で、夜久野地域については、再編実施に至っておらず、今後地域と協議を進めていく必要がある。

②乗継改善事業(形成計画P.152)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項				実施結果及び効果	
具体的な取り組み	実施主体	実施期間	内容	実施結果	効果
民間路線バスと自主運行バスの乗降制限に関する協議	西日本ジェイアールバス 京都交通 中六人部バス 三岳バス 庵我バス	平成28年度 ～令和2年度	市域全体を見渡したバス利用者の乗り継ぎ改善と利用促進の観点から、現在協定により一部乗降が制限されている区間について協議を行います。	・H31.4 中六人部バスと西日本ジェイアールバス園福線との乗降制限解除 ・H31.4 庵我バスの日本交通三段池公園線への乗り入れ ・R2.9 三岳バスと京都交通バス夜久野線との乗降制限解除	市内の乗降制限が全て解除され、中六人部バスでは減少していた利用者数が増加に転じた。
乗継ダイヤの調整	各運行事業者	平成28年度 ～令和2年度	鉄道のダイヤ改正に合わせたバスの時刻改正やバスからバスへの乗り継ぎ利用者の利便性の向上を目指し、乗り継ぎ実態に応じた必要な調整を行います。	鉄道や幹線バス路線のダイヤ改正に合わせて、随時市バスのダイヤ調整を行い、限られたダイヤの中で効率的な乗継ができるよう調整した。	乗継を考慮したダイヤ調整により、利便性の向上を図ることができた。
乗継割引制度の可能性の検討	各運行事業者 地域公共交通会議	平成28年度 ～令和2年度	市域全体を見渡したバス利用者の乗り継ぎ改善と利用促進の観点から、自社間及び他社との割引制度の可能性について検討します。	乗継割引については、割引分をどの事業者が負担するのかという課題があり、実施には至っていない。	—
乗継拠点、待合環境の整備	地域 運行事業者 市	平成28年度 ～令和2年度	乗り継ぎ利用者の実態に応じて、必要な拠点での乗り継ぎ環境の確保を目指し、乗り継ぎ拠点、待合環境の整備を検討します。	各地域において、バス停へのベンチ設置や待合所の清掃等、待合環境の改善等に協力いただいている。	地域による待合環境の整備により、公共交通の利用意識の向上につながっている。

③デマンド実証実験事業(形成計画P.152)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項				実施結果及び効果	
具体的な取り組み	実施主体	実施期間	内容	実施結果	効果
見直し路線についてデマンド型の運行案の検討	該当する運行事業者	平成28年度～	バス路線評価基準に基づき、見直しを要する路線等についてデマンド型の運行システムの導入を検討します。	京都交通バス川北線、小牧線沿線で実施を検討した。	検討したことで、デマンド型乗合タクシーの実証実験の実施につながった。また、移動手段に関する地域の意識の向上が図られた。
対象地域の利用実態調査	地域公共交通会議	平成28年度～	利用者の実態を把握し、地域のニーズに合った運行体系を検討します。	乗降調査やアンケートにより利用実態やニーズの把握を行った。	利用実態やニーズを把握したうえで運行内容の検討を行うことができた。
住民説明	該当する運行事業者 地域公共交通会議	平成28年度～	デマンド運行案の説明を実施します。	地域説明会や全戸配布チラシにより運行内容の説明を行った。	対象地域の住民に対して広く周知することができた。しかし、同居する家族から主要な利用層である高齢者へ情報が届いていないと思われるケースが多く見られたこともあり、口コミでの周知も必要と思われる。
再編実施計画の策定	地域公共交通会議	平成28年度～	必要に応じて再編実施計画を策定します。	平成29年8月、福知山市地域公共交通再編実施計画を策定した。	地域別・路線別の再編の方向性を定めることができた。
実証実験開始	運行事業者	平成28・29年度～	見直し内容の実証実験を開始します。(調整可能なものから順次)	・H29.3 川北デマンドタクシー実証実験(1か月間) ・R1.10 姫髪乗合タクシー実証実験(R2継続実施中)	実証実験を実施により、運行実績のデータ収集ができた。現在、引き続きデータの収集と制度化に向けた検証を行っている。

④公共交通空白地の地域コミュニティ交通支援事業(形成計画P.153)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項				実施結果及び効果	
具体的な取り組み	実施主体	実施期間	内容	実施結果	効果
運行事業者との運行体系案の検討	実施主体 市	平成28年度 ～令和2年度	運行主体とともに必要な運行体系案について検討を実施します。	平成27年度から平成28年度にかけて、三和地域協議会と三和地域の公共交通再編(市バス再編、公共交通空白地有償運送導入)について協議・検討した。	三和地域協議会との協議・調整により、地域が主体となって交通移動手段を維持するための体制を確保できた。
関係者との調整の支援	地域公共交通会議 有償運送運営協議会	平成28年度 ～令和2年度	関係事業者と実施主体との調整の支援を実施します。	平成29年8月、有償運送運営協議会を開催し、三和地域協議会が運行する公共交通空白地有償運送について協議を行った。	有償運送運営協議会での協議が整った上で、運輸局への届け出を行うことができた。
法的手続きの支援	実施主体 市	平成28年度 ～令和2年度	実施主体による運輸局等への手続きについての支援を実施します。	平成29年10月から三和地域において、三和地域協議会が運行する公共交通空白地有償運送「みわひまわりライド」が運行開始。	京都運輸支局への届出書類の作成等の支援により、手続きが停滞することなく、予定していた時期に運行を開始することができた。

⑤スクールバス活用検討事業(形成計画P.153)

福知山市地域公共交通網形成計画 記載事項				実施結果及び効果	
具体的な取り組み	実施主体	実施期間	内容	実施結果	効果
教育委員会、学校、PTA等との今後の活用の可能性について協議	教育委員会 市 学校 PTA	平成28年度 ～令和2年度	路線バスの利用実態とスクールバスの運行状況を分析する中で、今後の可能性について検討を実施します。	平成30年度、三和地域でのスクールバス一般混乗に向け、実施内容について、教育委員会、学校、PTA等と協議・調整を行った。	協議を行うことで、一般混乗実施の運行内容について調整を図ることが可能となり、円滑に実施することができた。
活用案の検討と関係者との調整	教育委員会 市 学校 PTA	平成28年度 ～令和2年度	活用案の検討と関係者との調整を実施します。	平成30年度、三和地域でのスクールバス一般混乗に向け、実施内容について、教育委員会、学校、PTA等と協議・調整を行った。	協議を行うことで、一般混乗実施の運行内容について調整を図ることが可能となり、円滑に実施することができた。
法的手続きの支援	実施主体と市	平成28年度 ～令和2年度	文部科学省や運輸局等への手続きを実施します。	平成31年4月から三和地域において、スクールバス一般混乗を開始。	スクールバスを所管している教育委員会や学校と調整を図り、円滑に実施することができた。